

臨時総代会の報告(続報)

6月に開催された「第51回通常総代会」では、「新役員体制で2024年度の活動・事業・予算案を、臨時総代会で報告すること」が可決承認されたことを受け、11/30に「臨時総代会」を開催する運びとなりました。12月4回のNewsLetterでの報告の続編として、今号では当日の来賓からのお話や参加した総代の感想をお届けします。

臨時総代会の詳しい内容（質問や回答・追加説明など）は「臨時総代会のまとめ」を作成中です。年明けに組合員全員に配布しますので、ご覧ください。



■来賓からの言葉 いのち育む生産者の会・来賓された方のメッセージを紹介します。

○鈴木牧場の鈴木昇さん

11/27に取引先を対象に「鈴木牧場の20周年記念イベント」を行いました。レストランなど、共同体の意識をもった良い関係があり、とても心地よい時間となりました。常総生協との出会いは25年前。常総生協との関係は本当に心地良かった。しかし、JOSOわいどを導入したあたりからその関係性は希薄なものに変わっていったように思う。今は職員や理事の関係性が心配。今後、常総生協とは心地よい関係・所であってほしい」と、身が引き締まるお話がありました。

○アーダ・ブレーンの佐藤圭さん

常総生協との繋がりは先代のお父様のときから。引き継いだ自身にとって常総生協との関わりで印象的なのは霞ヶ浦のアサザプロジェクトに参加したこと。山を大事にすると河川も海も綺麗になることを実感した。「あれ駄目、これ駄目じゃなく、こちらの方がいいよね、という提案型で話しましょう。お疲れ様でなく、お楽しみ様で！」と前向きなお話がありました。

○あいコープ宮城 専務理事の高橋さんからは、ネットワーク21をはじめとした生協の横の繋がりについて「研修も一緒に行ったりして、他の生協ともつながって生産者や産地を買い支えることが出来る。一つの生協では限界があるので、みんなで頑張りましょう」とのお話がありました。



■総代会 参加者の感想

○臨時総代会の計画、準備、大変な労力を要したこと と思います。丁寧な議案者に頭の下がる思いがしました。すべて納得のいく内容でわかりやすく説明され助かりました。熱心な質疑もありましたが常総生協への

2024年12月・2025年1月の予定

○生協基幹運営/地域活動・催し●	○提携・協同・連帯企画●
○「常総っ子応援団」in流星台プレイパーク：毎週木曜日10～14時活動中です！（出入り自由）	12/25(水)東海第二原発運転差し止め訴訟控訴審 第5回口頭弁論(@東京高等裁判所)
【お知らせ】秋の生協祭につきまして：今年の秋は開催せず、来年度に50周年の集いなどを企画出来ればと思います。	1/19(日)甲状腺検診@白井市 1/26(日)関東子ども健康調査年次報告会

～各種募金は、下記【注文番号】で、毎週受付しております。ご協力をお願い致します～

- ★【注文番号:500251】東海第二原発差止訴訟基金 1口500円
- ★【注文番号:500252】関東子ども健康調査支援基金 1口1000円
- ★【注文番号:500253】被災地等を支援する【JOSOたすけあい基金】 1口500円
- ★【注文番号:500254】JOSO脱プラ基金 1口500円
- ★【注文番号:500255】鈴木牧場・新牛舎応援基金 1口500円(期間：～2025年3月4回まで)
- ★【注文番号:500256】脱原発と暮らし見直し委員会「12年のまとめ」の印刷カンパ 1口200円
- ★【注文番号:500257】岩瀬牧場・養豚基金 1口500円(一次締切：～2025年4月5回まで)

熱い思いが感じられました。生協とは...を改めて考えさせられました。職員、生産者、組合員で組織され運営されるもの。自分の都合の良さだけを追及していましたが、生協の一員として視野を広げていこうと思いました。ありがとうございました。(つくば市Oさん)

○今回の臨時総代会もスケジュール通り進みませんでした。出席者としては先の予定もあるので困ります。(つくば市Tさん)

○臨時総代会に出席してはじめてわかったことは、臨時総代会議案書の中身(とくに活動方針)が提案の形になっていないのは、人繰りが苦しくて、柿崎専務も職員さんも将来を見据えている暇がなかったこと、新理事会のスタートへのサポートが手薄になっていたのかな、ということだ。総代会で承認するかどうかの提案として「生協をどのようにしていくのか考えましょう」では、YESもNOもない。理事の選出方法についても「組合員同士で協議していく」のは提案になっていない。今後議論する上では、具体的な提案や「こうしたい」というたたき台(方向性)がないと進まないと思うので、議論のための準備が必要だと思った。

第3号議案では、説明不足だったと思う。総代に何を判断してほしいのかが伝わらない議案書だと思う。①今まで報酬がなかった組合員理事と監事に月額1万円の報酬を出すことにした ②その結果、専務理事の報酬が大きく減額になった。というのが骨子ではないか。説明がなかったが、専務理事の減額はそのまま良いのだろうか?これも疑問が残るが、きっと説明したくないこともあるのか...深追いするのもはばかられて重ねて質問するのはやめた。

今後、一般の組合員へも「裏話」というか「打ち明け話」のような形で、いま理事会や職員さん達が困っていること、気にしていることをオープンにしたらいいのでは?と思う。注文書の回答率を上げたいと思うとか、働き手が足りなくて大変だとか、そういうことから「じゃあ、組合員として自分は何ができるのか?」と腰を上げる組合員もいると思う。その「困った」が全く見えない臨時総代会議案書だと思うので、これは組織として「説明不足」の状態だと言えると思う。組合員とも「困った」を共有しないと話し合いにならないし、この先の4生協連帯の可否・より多くの仲間づくりを目指すなども、同じ土俵で議論はできないと思う。(柏市 Iさん)

○今回の議案書には、4生協連帯に関する件や役員退任慰労金について、役員選任(推薦)制度について、今までの経過を調査した結果が報告されてありましたので、問題点が明らかになり、これから良い方向に行けると感じ安心しました。新しい理事の方々、これから大変でしょうが、常総生協職員と生産者、組合員との橋の舵取りをよろしくお願い致します。私もできる限り協力していきたいです。(牛久市Nさん)

○総代会の資料を読み、特別報告については、色々調べて報告して下さってありがとうございました。さぞ大変だったと思います。今後、様々な情報が公開され、組合員、職員、生産者が議論しながら運営されていくことを願います。柿崎さんから、供給職員が10名必要なところ、6名しかおらず、皆で協力しながらやっている話がありました。私たち組合員も協力できる所があれば知らせてください。本当にご苦労様です。(牛久市Aさん)

○中丸理事長、柿崎専務理事をはじめ理事、監事の皆さん、臨時総代会大変お疲れ様でした。今後も軌道にのるまで大変かと思いますが、よろしく願いいたします。微力ながら私も総代として供給していきたいと思っています。(守谷市・Hさん)

○会場での出席は、議案書についての補足や説明、発言される方の言葉、来賓の方々のお言葉、皆さんの表情、聞いている皆さんと会場の様子等、自分で議案書を読むことから得る情報と受けられる情報量が全く違うことが実感できました。傍聴も出来るのでぜひおすすめします。1人で考えられる範囲を、他の皆さんと同じ場で共有し、深めていったり新たに気づいたり考えさせられたりする機会となりました。ありがとうございます。(龍ヶ崎市Iさん)

○初めての議長でドキドキしていました。書面による意見が全て発表された事は良かったと思います。会場意見でNさんの「理事は理事の総代は総代の責任を自覚してください」はその通りだと思いました。「名前だけで大丈夫ですから」という言葉で総代をお願いしているようなムードではないでしょうか?「2年は長い」という意見もありましたが、半数ずつ交代するのはどうでしょうか?任期は2年ですが、全員代わると振り出しに戻る。(常総市Sさん)

○臨時総代会の開催お疲れ様でした。特別報告の資料の準備も大変だったと思います。1つ残念だったのは第2号議案活動方針に「中期計画策定を進める」という案が無かったことです。活動方針の3案はどれも「考えていきましょう」でした。これらを考える場が中計策定会議の場だからです。数年後の社会は生協は自分自身はどうありたいかを皆がそれぞれの意見を出しあい、ぼやっとした物ではなく、ハッキリ具体的なビジョンを現実の物にする為に単年度毎に目標を立てる、活動目標、活動計画です。よって次のことを提案いたします。

『中期計画を策定する』

その為の話し合いの場は地区懇談会や定期懇談会の場で無く、きちっと中期計画策定委員会を立ち上げる。委員はある程度、人数を決める。委員はなるべく各地区から出てもらう。なので案としては、地区懇談会で委員を選出してもらうのはどうでしょうか。担当の理

事（1人でいいのではないのでしょうか？）と職員をつけ、委員長は委員から互選する。案の完成までの間に1～2度の懇談会で途中までの案を出して皆からの意見を聴く。必要なら修正、2026年6月の総代会で決定する。理事会での検討をしていただけたら嬉しいです。

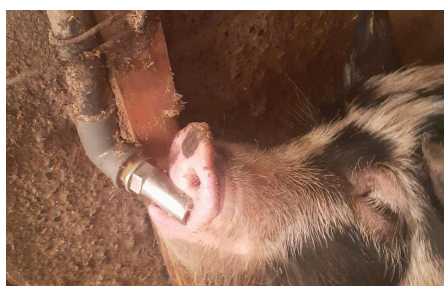
多分コロナ前は違ったと思いますが、総代会への総代さんの実質当日出席は少なくとも半分以上できれば7

～8割を望めないでしょうか。総代の責任の重さを感じてもらい、自覚していただける方向になればと望みます。それから、総代会の議長は3人いなくても2人で大丈夫だと思います。監事は今は4人居ますが4人も必要ですか？監事は2人にして2人は理事をやってほしい。（つくば市Mさん）

毎月はじめ「1の回」（今月は1週遅れ）は 岩瀬さんの豚肉特集！



豚の成長に必要な3要素「餌」「水」「寝床」



今回は豚の飼育の中で生育に関わる大切な3要素のお話です。豚が大きくなるには、『しっかり食べて・しっかり飲んで・しっかり寝る』という3つの要素がとても大切になります。この3つのどれか1つでも不具合があると豚の成長が止まってしまい、毛並みが悪くなったり痩せてしまうなどその影響はすぐに目に見える形で現れます。

中でも「水」は豚の育成には欠かせません。水を十分に飲まなければ、餌を食べる量が減ってしまい生育が遅くなってしまいます。餌を食べ足りないとうぐすり眠れず、更に悪循環に……。これを防ぐために現場では常に豚の様子を観察しながら作業に取り組んでいます。季節に

もよりますが、豚は1日に体重1kgあたり100mLの水を飲み、暑い時期には3倍にもなると言われています。出荷が近い豚になると、体重は90kgを超えているので単純計算で1日に1頭で9～10Lの水が必要になってきます。

岩瀬牧場では井戸水を豚の給水に使用していますが、井戸ポンプの調子が悪く圧力不足で一部の豚舎に水が回らない状況になってしまいました。ですが、「水」が欠けてしまうと一気に豚の状況が悪くなるので修理が出来るまでは手作業で対応する事に。しかしこれが想像以上に大変……。毎日、午前と午後300Lの大きなタンクに水を汲み、1部屋ずつ手作業で水をあげていきます（1回の給水作業で40～50分程度かかってしまいます）。水を入れる容器も豚が壊さない丈夫な素材である事、一定量の水をまとめて入れられる事という条件を踏まえて現場で試行錯誤。色々とした結果、今はドラム缶をカットして自作した容器を設置し、工夫しながら何とか対応しています。



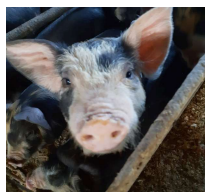
今はまだ寒い季節なので水を飲む量も少ないのですが、冒頭に書いた通りで夏場になるとその量は現在とは比べ物にならない位にたくさん必要になります。

手作業では物理的に給水量が足りなくなるという事もありますが、作業時間が圧迫され、豚舎の環境整備や給餌など他の作業に充てられる時間が削られてしまうことも大きな問題です。早めに修理して、重労働の給水作業を解消したいなぁと日々考えている現状です。

今回、岩瀬牧場では組合員の皆さんにご協力をお願いをさせていただき事にしました。現在も週に3日は現場で作業していますが、岩瀬牧場の養豚は他には無いとても貴重なものだと改めて実感しています。そんな貴重な「岩瀬さんの豚肉」を今後も安定して組合員の皆さんにお届けできるよう、牧場スタッフと一緒に頑張っていきますので、皆さんの応援のお気持ちを寄せていただけると嬉しいです。詳細につきましては、次ページに記載しておりますので併せてご覧ください。

今後も「岩瀬さんの豚肉」のご利用よろしく申し上げます！（牧場担当職員・横関）

「岩瀬牧場・養豚基金」にご協力ください



年末の慌ただしい中で恐縮ですが、組合員みなさんにお願ひがあります。

岩瀬牧場は、前述した通り修繕や改善が急務となっています。

生協も一緒になって豚を育て、

その命をいただいて豊かな食卓を囲むため、組合員みなで岩瀬牧場を支える「岩瀬牧場・養豚基金」を立ち上げます。今必要な、以下の費用に充てるため何卒ご協力ください。

岩瀬牧場は、2017年に常総生協の子会社となり、岩瀬さんと生協で協力しながら養豚を進めてきています。今では週3日、生協の職員が牧場スタッフと一緒に養豚作業に従事しています。岩瀬牧場自体は土浦で養豚を始めて70年近くになります。先代の岩瀬弘さんがコツコツ豚舎を増設するなど、少しずつ更新や拡張を重ねてきましたが、設備の老朽化が進み修繕が必要な状態です。

毎月の売り上げの中から修理費をまかなえればいいのですが、組合員の皆さんにはなるべく手ごろな価格で食べて頂きたく、値上げもかなり限定的に実施してきました。そのため、**設備を修理するための資金余力が厳しいのが現状です。**

現在、急ぎ必要な設備等は以下の3点です。

①豚の飲み水用の井戸の パイプ交換とポンプ洗浄

・ポンプに地下水に含まれるサビが付着し、圧力が上がらず、一部の豚舎に給水ができない状況です。パイプも劣化が予想されます。



↑ 長年の使用で腐食が進み穴が開いてしまった攪拌機

【岩瀬さんの豚肉】

- ・先代の岩瀬弘さんが独自で考えた、岩瀬牧場オリジナルの黒豚系の特殊なかけ合わせの豚です。
- ・海外産のトウモロコシ主体の配合飼料は使用せず、毎日牧場スタッフが地域の食品加工場（パン屋さん、麺屋さん、干し芋屋さん、豆腐屋さんなど）から残渣（ざんさ）を集荷し、自分たちで加熱・乾燥・発酵させて飼料を製造し、与えています。
- ・肉質が良く、脂身は甘くて、組合員の食卓に欠かせないお肉です。東京のとんかつ屋さん（ビブグルマン）でも大変好評です。



（日本の養豚家の状況）

- ・現在国内には、企業経営の大規模養豚を含めると3130戸。
 - ・多くは海外産のトウモロコシ主体の配合飼料を、LWD（三元豚ともいう。国内飼育豚の70～80%はこの品種。産子数、産肉性、成長が良い）に与え、概ね6カ月で出荷します。
 - ・報道にもあります通り、現在輸入穀物飼料が高騰しており養豚経営を大きく圧迫。高齢化も著しく養豚を後継する方もおらず、個人養豚家は廃業の一途です。他方で大規模な企業養豚化※が進んでいます
- ※平成26年に5270戸⇒令和6年に3130戸、9年間で2140戸と約60%も減少し、大規模養豚に集約化の傾向。（農林水産省資料より）

・現在、牧場スタッフが手作業で水くみをしており、洗浄と交換が必要です。費用としては20万円かかる予定です。

②発酵飼料を作る攪拌機

- ・修理しながら30年以上稼働しており、現在3台中1台が稼働。残り2台は故障中です。
- ・最後の1台が稼働できなくなると、エサが作れなくなります。また、経年劣化による腐食で穴も目立ちます。
- ・費用としては30万円程度かかる予定です。

③原種の親豚（雄・雌）

・現在原種がおらず、その子孫で繁殖させています。ただ、その子孫も高齢の為、代替わりの時期

を迎えています。費用は雄2頭、雌2頭で80万円を見込んでいます。

今後も健康な豚を育てて、安定して出荷できるように懸命に努力いたしますので、皆さんのご協力を、よろしくお願い致します。

「岩瀬牧場・養豚基金（第一次）」

注文用紙6桁欄に【注文番号】と【口数】をご記入ください。

番号【500257】

■目標金額：130万円（①②③の合計金額）

■1口：500円

■期間（1次締め切り）2025年4月末日

（専務理事 柿崎 洋）